

ひだまり

令和5年4月26日(水)
足立区立中川東小学校
道徳通信 第1号
校長 豊田 純子
道徳教育推進教師 前田 康介

道徳通信『ひだまり』では、各学年の道徳授業の様子をリレー形式でお伝えしていきます。子供たちは、毎週の道徳授業を通して、どのようなことを学び、気づき、心を豊かにしているのでしょうか。今回は5年生の道徳授業の様子をお伝えします。

◇5年生の道徳の時間◇

◇「内面的資質」を育む道徳授業◇

前田康介

「内面的資質」とは、子供たちの「道徳性」を意味します。学校全体で行う道徳教育や各学級で行われる道徳授業では、子供たちの「内面的資質」を育むことをねらいとしています。「内面的資質」について、少し詳しくお伝えします。

人の「思い」は見えない が 「思いやり」は見える
人の「心」は見えない が 「心づかい」は見える

見えていない部分が、よりよい行為へのエネルギーやモチベーションとなります。
見えていない部分こそが、子供たちの中にある「内面的資質」なのです。
「内面的資質」をより豊かに育むことで、よりよい行為に繋がっていくと考えています。
「内面的資質」とは具体的に、どのようなものがあるのでしょうか。



<令和5年4月17日 城地学級>

教材名: 『ぬぎすてられた くつ』
主題名: 節度ある生活 (授業のテーマを「主題名」と表します)
ねらい: 毎日を充実して過ごすためには、健全な生活習慣を守ることが大事であることを知り、節度ある生活を送ろうという心情を育てる。

このお話は、父親に靴の脱ぎ方を指摘された誠也が、最初は気にも留めていなかったけれど、学校で下級生にけがを負わせてしまい、生活目標と今の自分の姿について、自分が脱ぎっぱなしにしていた靴を見て自分自身の生活の在り方に気付くというものです。

授業では、誠也が靴を揃えられないときや父に注意されたときの気持ちを考えました。「面倒くさい」「帰ったらすぐにしたいことがある」「うるさいな」「いやなことばかりだ」など、誠也の気持ちに共感しました。そして、ぬぎすてられた自分の靴を見て自分の生活を振り返り、自分の生活を見直していく誠也の気持ちを想像しました。

授業の後半には、自分が生活の中で気を付けていることを想起し、自己を見つめました。「片づけをしてきれいになると、すっきりする」「自分から挨拶をすると朝が気持ちよく始まる」「自分で朝早く起きられるとうれしくなる」など、望ましい生活習慣を築くよさについて考えることができました。

- 道徳的心情**…道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を許さない感情
(例)「相手の気持ちを考えることって大切だな。なぜなら、友達とよい関係を築けるし、自分の気持ちも友達に大切にしてもらえるから。」と気付けること
- 道徳的判断力**…様々な場面で、正しく善悪を判断する能力
(例)「自分勝手に行動してはいけない。なぜなら周りの人に迷惑がかかるかもしれないから。」と判断できること
- 道徳的实践意欲**…道徳的心情や道徳的判断力を基盤として、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
(例)「挨拶をするって、自分も相手も気持ちがいいな。これからはすすんで挨拶をしていこう!」と意欲をもつこと
- 道徳的態度**…道徳的心情や道徳的判断力に裏付けられた、具体的な道徳的行為への身構え
(例)「もし、△△が起きた場合には、こうすればいいんだ! こうすることが大切なんだ!」と身構えること

上記の「内面的資質」を、道徳授業の中でバランスよく育み、子供たちが自らよりよい行為ができるよう、今年度も道徳教育(道徳授業)に注力していきたいと思っております!